

子供たちに広めたい

大木町出身 松永伍一さん詩碑除幕 没後10年

大木町出身の詩人・松永伍一さん(1930〜2008年)を顕彰する詩碑が同町八町牟田の町総合体育館前に建立され、没後10年の命日の3日に除幕式があった。式には松永さんが中学教員時代の教え子ら約200人が参列した。

【上田泰嗣】



完成した詩碑を囲む「松永伍一文学保存の会」のメンバーら

詩碑は高さ1・9メートル、幅2・45メートル。2枚の黒御影石板を並べた形で、教え子らが建立に奔走した。1枚には故郷を歌った詩「村」を、自筆原稿の字体を写して刻んだ。もう1枚は松永さんの業績などを書き込んだ。

式では、教え子の一人で「松永伍一文学保存の会」の鳥取英記代表(76)が主催者としてあいさつ。「10年の区切りに除幕ができて感慨もひとしおです。今後は原稿の保存・管理なども進め、子供たちが先生の作品に触れて視野を広げることが願っています」と述べた。

松永さんは農民詩人として出発し、70年に「日本農民詩史」で毎日出版文化賞特別賞を受賞。他にも子守歌や美術など多方面で活躍した。

詩人松永さんを顕彰

3日 詩碑除幕式

大木

三瀬郡大木町生まれの詩人、松永伍一さん(1930〜2008)を顕彰する詩碑が同町総合体育館前の広場に造られ、その除幕式が命日に当たる3日、現地である。併せて、ゆかりのある歌手によるミニコンサートもこっぽーっとホールで開かれる。

松永さんは戦後、町内中学校で教壇に立つ傍ら、久留米市の詩人、丸山豊に師事。中学では熱心に詩作を指導しガリ版刷りの文芸誌を発行、高い評価を得た。地域の女性グループにも短歌や俳句を教えた。

57年に教職を辞め上京、本格的な文筆活動に入っ

2018 3/3 (土)

松永伍一文学詩碑除幕式

大木町総合体育館前 13:00~14:30

こっぽーっとホール 15:00~16:30

た。以降、詩人としてだけでなく、美術評論や随想、民俗学など広範囲な論評で活躍。70年には「日本農民詩史」が毎日出版文化賞特別賞を受けた。

詩碑は教え子らでつくる「松永伍一文学保存の会」が、関係者や町内中学校卒業生らからの寄付を集めて建立した。松永さんが生まれ育った大木町を懐かしんで作ったという詩「村」が刻まれている。

除幕式は午後1時から。神事や「村」の朗読、町内児童から詩を募集した「伍一ジュニア賞」の入選作朗読などがある。ミニコンサートは同3時から、松永さんがその才能と人柄にほれ込んだという歌手の松原健之さんや、シンガーソング

文化会館

市議会 定例会

柳川市議会定例会は2月28日、議案に対する質疑が行われた。市民文化会館(仮称)の継続費の変更に關する2017年度一般会計補正予算など8件については、全員または賛成多数で可決。人事案件8件は全て全員賛成で同意。その他の議案に關しては担当常任委員と議員

詩人・松永伍一さん 顕彰碑



松永さんを顕彰した詩碑の除幕式＝大木町

没後10年 教え子ら、出身地の大木に



松永伍一さん

詩人で、評論家などとしても活躍した松永伍一さん（1930～2008）を顕彰する文学詩碑の除幕式が3日、松永さんの出身地大木町でおこなわれた。地元で中学校で教師を務めたこともある松永さんの教え子たちが、没後10年を機に「先生」をしのんで建てた。

詩碑は、町役場隣の町総合体育館前広場に建てられた。松永さんを慕う「松永伍一文学保存の会」が主催した除幕式には、約200人がつどった。

保存の会の代表、鳥取英記さん（76）によると、松永さんは大荒村（現大木町）に生まれ、27歳までこの地で過ごした。大荒、花宗中（現大木中）で7年間、国語の教師をしながら、生徒たちに詩作を中心に短歌や俳句などを指導したという。

1957年に上京した松永さんは、64年の「日本の子守唄」で本格的な文筆活動をした。松永文学の裾野がひろがることを期待します」とあいさつした。

今後は、膨大な生原稿や書籍資料の保存管理なども進めていくつもりだという。（上田真仁）

松永伍一氏顕彰詩碑を建立

大木町出身の詩人

没後10年 教え子らが寄付集め



大木町出身の詩人、松永伍一氏（1930～2008）を顕彰する文学詩碑の除幕式が3日、同町八町半田の総合体育館前広場であった。没後10年の命日で、ゆかりのある約200人が松永文学を後世に伝えることを誓った。

松永氏は大荒・花宗中（現大木中）で7年間教師をしながら、詩作を中心に短歌・俳句などを生徒たちに指導。1957年に活動の場を東京に移し、70年に全国各地の農村を回って農民の嘆きや伝承、唄などを集めた「日本農民詩史」全5巻を刊行。詩だけでなく美術評論や子守歌の収集など幅広い分野で活躍した。

詩碑は、当時の教え子でつくる「松永伍一文学保存の会」が町内外から寄付を集めて建立。高さ1・9メートル、幅2・45メートルの黒御影石製で、松永氏が古里を懐かしんで作ったといわれる詩「村」を刻んだ。詩碑の建つ場所は花宗中の跡地になるといふ。

除幕式では保存会の鳥取英記代表（76）が「松永先生は50年にわたって活躍した偉大な詩人。詩碑の建立で松永文学の裾野が広がることを期待している」とあいさつ。詩碑の前で大荒小6年柴田竜之介さん（12）が「村」を朗読した。（床波昌雄）

郷土の詩人を顕彰

10年目命日に碑除幕

松永さん 詠んだ「村」刻む

大木

の鳥取英記会長は「多くの

三瀬郡大木町出身の詩人、松永伍一さん（1930～2008）を顕彰する文学詩碑の除幕式が3日、碑が建立された同町総合体育館前の広場で行われ、関係者約200人が出席。松永さんが故郷を懐かしんで詠んだという詩「村」が刻まれた碑がお披露目された。「郷土が輩出した詩人を次世代に」との願いを込め、詩の朗読、ミニコンサートなどが行われた。

松永さんは地元で中学校教師をしながら生徒たちに詩作を指導。教え子と一緒に文芸誌を刊行して高い評価を受けた。1957年に上京して分筆活動を本格

詩碑の前に祭壇が設けられ、神事の中で除幕が執り行われた。詩碑に刻まれた「村」の朗読や、松永さんがほれ込んだという歌手の松原健之さんらによるミニコンサートも行われた。また、町内の児童が応募した「ジュニア賞最優秀作品



除幕された松永さんの詩碑

方のご支援で詩碑を建立できた。郷土の詩人として次の子どもたちにも継承していければ」と話した。

ジュニア賞の最優秀賞受賞者は次のとおり。敬称略。

金森颯真（大荒小）梅崎帆央（大荒小）原田陽道（大荒小）佐木小

（牛島 亮介）